

“物流新ルート”の国道337号・道央圏連絡道路 待望の結節点 「美原大橋」開通!!



吹雪の中、美原大橋の上で行われた渡橋式



橋上に立つ80mの主塔2基から斜に張られたケーブルが美しい直線を描く。夜間はライトアップされ、マチの新名所に。春と秋の渡り鳥の移動時期を避け、初年度は金曜一日曜、夏休み期間などを中心に点灯される。



道央圏の物流拠点・新千歳空港から石狩湾新港を結ぶ道央圏連絡道路の一環として、石狩川を挟んで江別市美原―江別太を結ぶ「美原大橋」と、その前後の道路「美原バイパス」(国道337号)が、2005年、3月26日に開通しました。工事着工から10年あまりの時を経て完成した美原大橋。石狩平野に映える美しいシルエットの斜張橋は、道央圏の発展に大きく貢献する架け橋として注目されています。

●新物流経路のランドマークに

道央自動車道江別東インターから江別市美原を結ぶ延長3.9kmの「美原バイパス」が供用され、石狩川に架かる「美原大橋」が2005年、3月26日の夕方に開通しました。美原大橋は1995年10月に着工、総事業費317億を投じて完成した河口から5番目の橋です。

開通に先立ち、同日昼過ぎから橋周辺で渡橋式が行われ、着工から10年を経た完成を祝いました。

渡橋式には約150人が参加。札幌開発建設部の本名一夫部長が「美原大橋は道央圏連絡道路計画の重要な結節点。新たなランドマークとなるはず」と述べ、続いて町村信孝外務大臣が「橋の完成を、とても楽しみにしていた。新千歳空港と小樽港を結ぶ全線の開通は、必ずや北海道の活性化に役立つだろう」と祝辞を述べました。その後、橋の上でのテープカットに続き「親子三代渡り初め」の3家族・18人と江別市内の北光、江別太両小の児童ら35人が住民を代表して橋の中ほどまで歩き、渡り初めを行いました。

石狩川による分断地域を繋いだ美原大橋により、蕨岱地区から江別東インターまでの所要時間が約10分短縮されることになります。

●大きな翼を石狩川に広げて立つ、斜張橋

美原大橋は全長972mの「一面吊り鋼斜張橋」。高さ80mの2本の主塔から、橋げた中央部に左右ななめに弦のように張られたケーブルが橋げたを支える形式の橋です。主塔間の距離は340mで、全国で3番目、また世界でも8番目の長さの橋です。空を突くように伸びる逆Y字型の主塔は、強風などにも強い安定性に優れた構造で、ケーブルが橋げたにかかる姿は、大きな翼を石狩平野に広げた鳥のような美しい姿を見せてくれます。

主塔を支える2基の橋げたには、大きな支持力と河川内における長期作業が求められたために、仮締め切り兼用の「鋼管矢板基礎施工」を採用。この工法は、外周杭列を仮締め切り材に兼用して、洪水時の安全性を確保するという構造上に優れた工法です。またこの基礎断面は長径61m、短径35mで、国内最大級となっています。

●道央圏の発展・物流促進に大きく貢献

一般国道337号・道央圏連絡道路は、千歳市から長沼、南幌、札幌北部を經由して小樽市に至る延長約80kmの道路で、地域高規格道路の計画路線として指定されています。今回開通した美原大橋を含む美原バイパス(3.9km)はこの一部です。銭函・新港地域を貫き、当別町までの38km区間もすでに供用で、残りの約半分の区間の整備が促進されています。

札幌中心部を通らないこの新しい物流ルートは、道内の物流の効率化のみならず、地域開発拠点相互の連携・交通を促進するとともに、都市内の渋滞緩和、時間短縮等の高い効果が期待されています。